【イベントレポート】
報道関係各位

2026年11月17日
日本酒造組合中央会

『第45回全国きき酒選手権大会』イベントレポート

本年度の“きき酒日本一”が決定！

「個人の部」優勝は東京都代表・芳賀 亮太さん

「まさか本当に優勝できると思わなかった・・・」

「団体の部」は37年ぶり2回目の優勝を夫婦で勝ち取った新潟県

「やっと酒処新潟に団体優勝を持ち帰ることができてうれしく思います！」



「個人の部」優勝・東京都代表・芳賀 亮太さん



「団体の部」優勝・ 新潟県　渡辺 英雄さん、渡辺 雪紀子さん



「大学対抗の部」優勝・ 京都大学A
（写真左より呉 隼人さん、懸川 怜さん）



「社会人日本酒愛好会対抗の部」優勝・ 米酒CLUB
（写真左より清水 健さん、吉澤 龍一さん）

日本酒業界最大の団体である日本酒造組合中央会（以下、中央会）は、「第45回全国きき酒選手権大会」（以下、きき酒選手権大会）を、2026年11月14日（土）にTOC有明コンベンションホール（東京都江東区有明）にて開催しました。当日は、各県予選を突破した代表者などが、日本酒の知識に関する筆記試験と、7種類の日本酒について味や香りを確かめながら判別する“きき酒”を実施し、“きき酒日本一”の称号をかけて熱い戦いを繰り広げました。

今年は、41都道府県計76名の代表選手が参加し、「個人の部」と各都道府県の代表2名の合計点で競い合う「団体の部」で、それぞれきき酒日本一の座をかけて競いました。「個人の部」では、東京都代表の芳賀 亮太（はが りょうた）さんが、プレーオフの激戦を勝ち抜き見事優勝し、日本一の称号を手にしました。芳賀さんは、まず率直な感想をという問いに「昨年の優勝者の福井さんも言っていましたが、まさか本当に優勝できると思わなかった。本当に感無量です。ありがとうございます！」と率直な気持ちを述べ、誇らしげな笑顔で答えていました。

「団体の部」では、新潟県の渡辺 英雄（わたなべ ひでお）さん、渡辺 雪紀子（わたなべ ゆきこ）さんが優勝。新潟県としては、第9回以来、37年ぶり2回目の栄冠を勝ち取りました。渡辺 英雄さんは「個人の部で2位と呼ばれた時、ちょっと悔しかったが、何とか団体の部で優勝できてホッとしています。やっと酒処新潟に団体優勝を持ち帰ることができてうれしく思います」と感想を述べたあと「名字が同じなのですが、実は夫婦で出場しています！」と夫婦での出場を告げると会場から拍手が巻き起こりました。妻の雪紀子さんは「夫も私も別々のタイミングで何回か出場しましたが、結果が出ませんでした。今回は個人2位だった夫に引きずり上げてもらった気がします。家での練習では、きき酒のセットを作ってくれた子供にも感謝します」と、練習を手伝ってくれた子どもたちにも、夫婦二人三脚で掴んだ優勝への感謝を伝えていました。

当選手権大会向けに日本酒の歴史や製法を学んだり、好みの味わいを追求したりと、活動の幅を広げている日本酒の学生サークルや社会人日本酒愛好会も多数参戦。「大学対抗の部」（17大学23チーム45名）では、京都大学Aの呉 隼人（くれ はやと）さんと懸川 怜（かけがわ れい）さんのペアが優勝。呉さんは「これをきっかけに日本酒の魅力を大学生に伝えていきたい」、そして懸川さんは「去年はずしてしまったので、リベンジできてうれしいです」と仲間と掴んだ栄冠の喜びを分かち合っていました。そして、「社会人日本酒愛好会対抗の部」（12チーム24名）では、米酒CLUBの吉澤 龍一（よしざわ りゅういち）さんと清水 健（しみず けん）さんのペアが優勝を飾りました。吉澤さんは「年末年始に地元に持って帰って飲みたい」、清水さんは「準備はしましたけど、まさか優勝できると思わなかったので、本当に嬉しさでいっぱいです。本を読みながらお酒を飲みたい」とそれぞれ、優勝したあとの日本酒の楽しみ方を述べていました。





講演会では、第44回大会「個人の部」優勝 福井 愛（ふくい あい）さんが登壇し、日本酒を楽しむようになったきっかけや、きき酒競技を極めたトレーニング方法などについて語るトークショーも開催されました。これからの日本酒の楽しみ方はという問いに「年々苦手なお酒がなくなってきたという気がしていて、苦手だったお酒もペアリングする料理の違いで、新たにおいしさを感じられるようになった」とペアリングによる好きな日本酒の広がりと奥深さを感じられるトークに会場内では真剣に耳を傾ける人が多く見受けられました。また、「きき酒の魅力も広めていきたい」と優勝者ならではの今後の抱負について語っていました。



第44回大会「個人の部」優勝者　福井 愛さん

また、大学生による活動報告では、全国学生日本酒連盟会長であり、新潟大学日本酒サークル雪見酒代表の古屋 順晟（ふるや じゅんせい）さんから「学生だからできる日本酒活動－全国学生日本酒連盟と大学日本酒サークル－」と題して、日本酒を知るための勉強会や酒蔵見学、日本酒を愛する人とのつながりとして、日本酒サークル間交流会、酒蔵や地域の人たちとの積極的な交流など、若い世代のファン層拡大を目指した多彩な取り組みが紹介されました。また、今年は、第5回交流会が京都で開催され、主催の京都大学日本酒サークル「SakeLab.酝」代表の淺野 秀太（あさの しゅうた）さんからも実施成果の発表が行われました。
さらに、特別講演では文化庁参事官（生活文化連携担当）付専門官　徳永 美和子（とくなが みわこ）さんによる講演、「ユネスコ無形文化遺産『伝統的酒造り』－未来へつなぐわざと文化－」が行われました。伝統的酒造りとは何か、どのような経緯でユネスコ無形文化遺産登録に至ったのか、そして今後どのように次世代につなげていくのかについて語られました。



全国学生日本酒連盟の古屋 順晟（左）さんと
京都大学「SakeLab.酝」の淺野 秀太さん（右）



文化庁専門官の徳永美和子さん

また、最後に行われた懇親会場では、会場に各組合の法被を展示した「法被ウォール」が設けられ、会場を華やかに彩りました。参加者同士がお互いの健闘を称え合い、きき酒選手権大会の感想や日本酒に関するさまざまな情報を交換するなど、終始和やかな雰囲気の中で会話が弾んでいました。



〈概要〉

正式表記名称	第45回全国きき酒選手権大会
開催日時	2026年11月14日（土）12:00～17:30
会場	TOC有明コンベンションホール（4F）東京都江東区有明3-5-7
主催	日本酒造組合中央会
主なプログラム	開会式・ルール説明/筆記試験/きき酒競技/講演会「学生だからできる日本酒活動－全国学生日本酒連盟と大学日本酒サークル－」全国学生日本酒連盟/トークショー 第44回大会個人の部優勝 福井愛/特別講演「ユネスコ無形文化遺産『伝統的酒造り』－未来へつなぐわざと文化－」文化庁参事官付専門官　徳永 美和子/懇親会/成績発表・表彰式（※敬称略）

第45回全国きき酒選手権大会 大会結果

個人の部

順位	都道府県	氏名
優勝	東京	芳賀 亮太（はが りょうた）
準優勝	新潟	渡辺 英雄（わたなべ ひでお）
第3位	兵庫	鴨谷 健司（かもたに けんじ）
第4位	北海道	外川 翼（とがわ つばさ）
第5位	熊本	柴田 大希（しばた たいき）
第6位	佐賀	内田 澄子（うちだ すみこ）
第7位	山形	荒井 さつき（あらい さつき）
第8位	神奈川	岨 稔康（そわ としやす）
第9位	宮城	濱本 英巨（はまもと ひでみ）
第10位	奈良	森山 奈緒子（もりやま なおこ）

団体の部

順位	都道府県	氏名
優勝	新潟	渡辺 英雄（わたなべ ひでお）/渡辺 雪紀子（わたなべ ゆきこ）
準優勝	山形	荒井 さつき（あらい さつき）/津山 研二（つやま けんじ）
第3位	埼玉	神田 光（かんだ ひかる）/石井 小百合（いしい さゆり）

大学対抗の部

順位	大学名	氏名
優勝	京都大学A	懸川 怜（かけがわ れい）/呉 隼人（くれ はやと）
準優勝	慶應義塾大学	岡本 慎之助（おかもと しんのすけ）/松井 元秀（まつい もとひで）
第3位	広島大学	八木 太陽（やぎ たいよう）/鈴木 佑弥（すずき ゆうや）

社会人日本酒愛好会対抗の部

順位	チーム名	氏名
優勝	米酒CLUB	吉澤 龍一（よしざわ りゅういち）/清水 健（しみず けん）
準優勝	HPE実業団日本酒部	辻 晋明（つじ くにあき）/北川 拓真（きたがわ たくま）
第3位	SOMPO日本酒部	細井 公美子（ほそい くみこ）/佐川 龍一（さがわ りゅういち）

。

日本酒造組合中央会について

全国約1,600の日本の伝統ある酒類(日本酒、本格焼酎・泡盛、本みりん)メーカーが所属する日本酒業界最大の団体。酒類業界の安定と健全な発展を目的とし、1953年に設立。ユネスコ無形文化遺産に登録された「伝統的酒造り」により生み出される「國酒（こくしゅ）」である日本酒、本格焼酎・泡盛、本みりん等について魅力を広めることにより、世界の食文化の多様性に貢献し、国内外の需要拡大につなげる活動に取り組んでいます。

■**公式HP：** https://japansake.or.jp/sake/

＜報道関係の方のお問い合わせ＞

日本酒造組合中央会 PR事務局（株式会社そらはな 内）

Tel：03-5456-7939、E-mail：japansake_pr@sora-hana.jp

担当：林 080-7854-1843・端山 090-3963-5321・藤岡 070-8387-8541